



## 何故仏教が流行したか (今、必要なのは、平和の哲学の流行)

(2月のごあいさつ)  
2019年2月1日(金)

約5年前から読み始めた史記、三国志に続いて、十八史略を読んでいる。

当時の中国語は、現在とは別の言葉のように難しく、解説書頼りである。中国語の先生から、山内さんの古典中国語は、国際通りでは通用しないね、などと言われ乍らも興味を持って続けている。

それというのも、歴史が面白い。中国の後漢末から隋初の時代、年代で言うと、2世紀から6世紀の頃は人々は喜怒哀楽と欲望を正直に表現している。

特に**五胡十六国の時代**、150年に満たないその時代の存亡は激しく、政治的にも人道的にも道徳というものを忘れたような状態で19の王国が興亡した。その時期、西域を経て中国へ伝来した**仏教**が、**飛躍的發展**を遂げた。

天才的な仏典翻訳者の**鳩摩羅什**(クマラジュウ)、**第二の釈迦**とまで言われ、仏教思想を整理、体系化した**天台智顛**などの傑出した名僧が輩出した。朝鮮半島の百済を経て**聖徳太子の時代**の日本へも伝わり、特にお釈迦様が死の前に説かれたという**法華経**は広く読まれるようになった。

お釈迦様の言葉、“この世で悟りを開き自らの幸福を築き、利他のために奉仕する姿を目指すべきである。苦行ではない、**煩惱を去ることだ**”という教えが、戦乱の時代に一大流行したのは人々の心に希望を与えたからであろう。

去年の8月、ふとしたことで知り合った創価学会の安田進副会長に、恩納村にある創価学会研修道場を案内していただいた。

そこは、かつての米軍「**核ミサイルメース B 基地**」81,000 m<sup>2</sup>の跡地である。敷地内に取り壊されずに残る“**ミサイル発射台 8 基**”は、当時の池田名誉会長の提案で、1977年6体のブロンズ像が建つ「**世界平和の碑**」へと生まれ変わった。同様の発射台は、読谷村、勝連町、金武町にも各8基が設置され、**そのミサイル一基**は、広島の子原子爆弾の30倍ともいわれる破壊力があったという。当時、文化大革命の最中にあった北京をはじめとする**中国等の主要都市**に向けられ、ボタン一つで発射が可能とのことであった。

現代は、中国の五胡十六時代ほどの混乱の時代ではないかもしれない。

しかし、核保有国のうち一国だけの核で**全地球を滅亡させる力**があるという。この時代にこそ**自他の存続と幸福を願う心**が必要であり、人類の滅亡を救う**平和という言葉**がかつてないほどの重要性を持って語られるべき時代である。